

アブラムシ類の発生活長を調査しています

古河市のニガウリは、平成 25 年に茨城県青果物銘柄産地に指定され、地域の代表的な品目となっています。

坂東普及センターでは、高品質なニガウリ生産を支援するために、黄色水盤トラップを設置し、4月下旬から8月下旬までウイルス病の媒介虫であるアブラムシ類の発生活長を調査しています。

調査結果は普及センターでとりまとめ、JA 茨城むつみと連携して生産者と情報共有し、防除指導の一助としています。

アブラムシ類が媒介するウイルス病は一度感染すると治ることはないため、育苗期から収穫開始までの生育前半の防除が重要です。アブラムシ類は 15～25℃程度で活発に活動します。気象庁の観測データによると、昨年（R 6 年）は4月中旬から6月下旬までの平均気温が約 15～25℃であったことから、発生が多い年となりました。今年も4月9日から日平均が 15℃を超える日が続いており、毎回の調査でアブラムシ類の発生が確認されています。

坂東普及センターでは、今後も継続して調査を行い、ニガウリの品質向上・安定生産に向けた支援を行っていきます。

令和 7 年 6 月 9 日 坂東地域農業改良普及センター 米倉（成長産業）



黄色水盤トラップの様子
(アブラムシ等を誘引・捕捉している)